

◇この議事速報（未定稿）は、正規の会議録が発行されるまでの間、審議の参考に供するための未定稿版で、一般への公開用ではありません。
 ◇後刻速記録を調査して処置することとされた発言、理事会で協議することとされた発言等は、原発言のまま掲載しています。
 ◇今後、訂正、削除が行われる場合がありますので、審議の際の引用に当たっては正規の会議録と受け取られることのないようお願いいたします。

○とかしき委員長 質疑の申出がありますので、順次これを許します。長妻昭君。

○長妻委員 立憲民主党、長妻昭でございます。

おはようございます。よろしく願います。ちょっと残念なことに、私、今日、参考人としてオリパラの組織委員会の副事務総長をお呼びしていたんですが、これは御出席がまかりならぬという与党の方の御主張がありまして、できなかつたわけでございます。文部科学委員会とか内閣委員会には頻繁に出席しているわけでありまして、オリンピックの在り方について議論できないわけですね。是非お願いをしたいと思えます。

そして、まず警察の方にお伺いしますが、警察庁から、取り扱った新型コロナウイルスの御遺体の件で、先日、六月四日の立憲民主党の川内議員に対する答弁に関連して補足説明と訂正があるということなので、お願いをいたします。

○猪原政府参考人 答えをいたします。警察が取り扱いました新型コロナウイルス陽性

の御遺体に関する情報の厚生労働省への提供につきましては、令和三年一月の衆議院予算委員会等におきまして長妻議員から要請をいただき、御遺体の死因の内訳、病院への搬送の有無等、長妻議員からお尋ねがありました事項を新たに整理、分析したものを厚生労働省に提供しております。その後、警察が取り扱いました新型コロナウイルス陽性の御遺体に関する情報につきまして、厚生労働省に提供しております。

なお、警察が取り扱いました新型コロナウイルス陽性の御遺体に関する概要の情報につきましては、警視庁が取り扱いました御遺体の中に新型コロナウイルス陽性の方があった旨の令和二年四月の報道を受けまして、厚生労働省からお問合せがあり、それを機に厚生労働省に提供しております。

すなわち、令和三年六月四日の衆議院厚生労働委員会における川内議員の御質問に対する答弁で、令和二年の一月から三月頃の間、警視庁の、コロナ陽性の方の御遺体の取扱いがあったという報道を受けて、それを機に提供させていただいたと答弁しておりますところ、正確には、契機となりました報道は令和二年四月でありまして、この点につきまして訂正をさせていただきます。

○長妻委員 どうもありがとうございます。是非、厚生労働省とも更に情報を共有して、今日も新聞社が独自に調べた、自宅で、入院できずにお亡くなりになった方のかかなり多い人数も報道されておりますので、是非よろしく願います。それでは、警察の方、御退席いただいて結構で

ございます。ありがとうございます。そして、これも首をかしげるんですけども、今日も報道にもございましたが、私も永田町にいると感じますけれども、オリンピックは、無観客じゃなくて、やはりお客さんを少し入れてもいいんじゃないか、入れる方向でやろう、こういう機運が高まっているということでございます。私も感じておりまして、非常に危機感を持っているところでもあります。

そうした中、この六ページ目に配付資料でつけさせていただいておりますが、これは、報道機関のTansaというところが組織委員会の議事録を入手したということでございます。

これは組織委員会とパートナーと呼ばれるスポンサー企業との会議ということで、四月二十八日に午後九時半から一時間超にわたって、数十社ぐらいたいのスポンサー企業と組織委員会が会議をされたというふう聞いています。私も組織委員会に問い合わせますと、確かにその時間、その日時に会議をしているということ、副事務総長も出席をされておられたということを確認をしているところでございます。

この報道によると、その議事要旨ですか、議事録ですか、そこには、スポンサーと組織委員会とのやり取りの中で、スポンサーが相当心配しているんですね。無観客というようなことを聞いて、すごく心配しているわけです。例えば、スポンサーからは、七ページですね、チケットキャンペーンで座席が当選した人に当選を有効だと伝えてもいいのかというような疑問の

質問が上がって、組織委員会としては、当選は有効です、こういうふうにお答えをしたり、無観客になったらシニアエグゼクティブパスはどうするのか、こういうような御質問もあったわけで、組織委員会は、お客様を入れることで最大限努力するという一方で、一部御紹介、全て御紹介できませんが、つまり、相応な突き上げがスポンサーから、お客さんを招待した枠というのは一体どうしてくれるんだ、こういう突き上げがあるわけで、組織委員会は、自分たちは民間です、民間ですとおっしゃっておられて、なかなか表に出てこないんですが、確かに民間ということで、整理としては、スポンサー収入というのが大きいわけですね。やはりこのスポンサー収入を失いたくないというところで、このTansaの報道によりますと、最上位のランクのワールドワイドパートナーで一社で最大一千億円お金を払うということで、非常に大きな収入源になっているということで、いろんな声が寄せられていて、こういうようなこともあります。パートナー、スポンサーの方から、組織委員会とパートナー企業で越えなければならぬ共通の壁は世論だ、中止すべきだという世論を逆転させる必要がある。これに対して組織委はおっしゃるとおりでしたとしながらも、一月から反転攻勢に出るつもりだったが、コロナに再び勢いが出てしまったというようなやり取りもあったようでございます。

そうですね。ところが、純粹なそういう発想とは違いますが組織委員会の中で、スポンサーからの大きな要望というか、これはしようがないと思うんですよ。しようがない側面はあると思うんですよ。だって、民間ですから、スポンサーの収入がなかったら赤字が出て責任追及されちゃいますから。だから、組織委員会ではなくて、そういうことについてはちゃんと政府が厚労大臣も含めて出張っていつて、それは駄目なんじゃないの、こういうようなことをちゃんとやってもらわないと、民間に任せていたら、収入を最大化するというのが民間でありますので、感染防止とは違う力学が働きかねないというふうに思っております。

尾身先生にお伺いいたしますけれども、そういう意味では、お客さんをオリンピックに入れる、私は無観客という前提でいろいろ議論していたつもりなんです、それでも大丈夫なのかという議論をしていたつもりなんです、この期に及んでお客さんを入れるということについては尾身先生はいかがお考えですか。

○尾身参考人 最近国会に呼ばれてお答え申し上げているように、今、我々専門家が中心になって毎日リスクの評価をしております、そういう観客の数ということも、全体の感染状況、これはそこだけ見てもしようがないので、今現在六月ですけれども、それからオリンピックの開催、七月、八月に向けてどういうような感染状況になり得るかというようなことも含めて今いろんなリスクの評価をして、そういう中で我々是我々の考えをお示ししたいと思っております。

○長妻委員 尾身先生、観客を入れても大丈夫というようなやり方というのもあるんですか。

○尾身参考人 観客の数というのはゼロからありますよね。ゼロから限界まで。そういう中で、観客の数ということでどういうリスクが起るかというのを我々は示す役割だと思いますので、どういうリスクがそれぞれのオプションであるかということをお示ししたいというふうに今考えております。

○長妻委員 それは当然だと思いますが、無観客の方がリスクは低いということは当然だと思うんですが、いかがですか。

○尾身参考人 これは算数ですから、ゼロの方がリスクは少ないのは当然で、数が多くなれば増える。と同時に、入れ方にもよるので、ゼロが一番少ないというのはこれはそういうことで、数が増えていくとだんだんリスクが高まりますが、入れ方ということもいろいろなオプションがあつて、それぞれのリスクがあると思います。

○長妻委員 しかも、関係者のお話を聞きますと、確かにフルにお客さんを入れるという選択肢は組織委員会も持っていないようでございまして、一定のお客さんは絞って入れることなんです、その絞った場合、スポンサーを優先させる、こういうような議論がなされているんですね。つまり、スポンサーのお客さんを優先するがためにお客さんを入れる。ちよつと、そういう発想でいいのかどうか。一般の方がはじかれるということなんですけれども、今日はオリパラ事務局に来ていただいておりますが、こういうことも関係者か

ら聞こえてきます。

つまり、今、組織委員会はこのよう提示をファンサーの方々にされているようにございます。観客の目安というのは、五〇%か二万人か、少ない方でやる。これは恐らく政府の大規模イベントを多少準用している考え方だと思いますが、そうすると、関係者間でも話し合いがあるようにございしますが、私の選挙区に隣接している新国立競技場、

これは六万人ぐらいらしいですね、収容人数が。そうすると、五〇%だと三万人。五〇%か二万人か、少ない方というのがルールらしいので、そうすると、三万人と二万だったら二万人が少ないので、新国立競技場は二万人を入れる、こういうようなことが議論されているようなんですが、大体おおむね間違っていないですか。

○十時政府参考人 お答え申し上げます。

東京大会における観客の在り方につきましては、IOC会長、IPC会長、組織委員会会長、東京都知事及びオリパラ大臣による五者協議において議論がなされてきておりまして、観客数に係る判断につきましては、四月二十八日の五者協議におきまして、変異株による国内感染の状況も踏まえ、スポーツイベント等における上限規制に準じることを基本として、六月に行うということで合意をしているところでございます。

政府としては、引き続き、安全、安心を確保することを最優先に、内外の感染状況等を注視しつつ、様々なスポーツイベントにおける感染対策の取組や専門的知見も踏まえながら、東京都や大会組織委員会、IOCなどと緊密に連携しつつ、大

会に向けた準備を着実に進めてまいります。

○長妻委員 これは以前から読んでいる原稿をそのまま読んでいるわけじゃないですか。全然答えていないじゃないですか。だから、与党に組織委員会を呼んでくださいと言っているんですよ。全然分かっていないじゃないですか。分かっていて答弁されていないのかどうか分かりませんが、

尾身先生、新国立競技場の周辺、地元の方で非常に不安に思っておられる方もいらっしゃるわけですが、新国立競技場は六万人が定員らしいんですが、二万人を入れていくということとは、リスク評価としてはどういうようなことですか。

○尾身参考人 これは二つの側面があつて、それを双方考えないといけないと思います。

一つは、スタジアムの中における感染。それから、その前後ですね、観客が入ることによって、終わると当然出ていって飲食なんかもある、そういうリスク。それから、いろいろなところから会場に集まる、特に県を越えてくることもあり得る。そういうスタジアムを中心に、その前後のリスクということ。

それからもう一つは、私どもはそれと同時に非常に大事だと思つているのは、人々の納得感といえますか、恐らく、今回の場合は、私どもも申し上げているように、スタジアムの中のものも大事ですけれども、一般の地域ですね、日本のほとんどの人は、仮に観客を入れてもそこには行かないわけで、地域にいるわけですよね。そういう人たちが、恐らくこの時期にはある一定程度の感染対

策というのをお願いすることになると思うので、

そういう人たちに納得してもらえようなスタジアムの中の景色というの私も私は大事だと思います。○長妻委員 仮に二万人もお客さんが入つて、ファンサーの方がかなり多くその中を占めて、国民の皆さんには、お酒は出さないで居酒屋さんはやめてくださいとか、時短をしてくださいとか、大規模スポーツイベントはやめてくださいとか、運動会もやめてください、こういうようなことが成り立つのかどうかと思うんですね。

そこについては、尾身先生、いかがですか。

○尾身参考人 今申し上げたように、多くの観客でない人がほとんどですよ、そういう人が、これから、七月、オリンピック期間も含めて、だんだんまた感染が、緊急事態宣言なんか仮に解除した後には、また人流が増えて感染が拡大するプレッシャーがかかってくるので、そういう中で多くの人々に協力をお願いする必要があるのか、そういうときには、全体みんなが、ああそうだなという思いが矛盾しないような形というオリンピックの在り方というのは、基本的には考え方としてそういうことは求められるんだろうと思います。

○長妻委員 そういう意味では、オリパラ事務局にお伺いするんですが、町中が気が緩んでしまふ、オリンピックという大規模イベントをやつていたら、スポーツの普通の地元の大会なんかは自粛なんかしませんよ、それはなかなか。あるいは、お店に時短営業をお願いしますと云つたつて、いや、オリンピックやつていらっしゃるだろう、そんな俺たちだけできないよというふうな雰囲気が出てきて、

なかなかそれがままならなくて町中が緩んでしまふと思うんですが、この町中が緩まないようにする対策というのは、オリパラ事務局は何かあるんですか。

○十時政府参考人 お答え申し上げます。

東京大会の開催に伴う観客が人流にどういった影響を与えるか、影響を小さくするにはどういった感染対策を講じればよいかなどにつきましては、東京都とも連携しながらしっかりと検討を進めてまいりたいと考えております。

○長妻委員 これはまた、尾身先生とか分科会はかんでいないんでしょう。そうすると、お手盛りになる可能性がありますよ、絶対。私も、東京都選出の国会議員として、都民の皆さんの本当に切実な声を毎日いただいているんですよ、私も責められているんですよ。野党がしっかりとしないからオリンピックがどんどん進んじやうだろう。何をやっているんだ、リスク評価もしないのかと。おまえら、野党として責任を果たしているのかと、相当私もプレッシャーがかかっているんですよ。私も不安ですよ。それは誰が一体専門か。尾身先生に頼んだらどうですか。

それで、尾身先生の方が、専門家の皆さんが提言を出すということをおっしゃっておられますけれども、二ページ目、ちよつとマスコミ報道で一部出ていましたので、うちの事務所の方でそれを毎日新聞の記事に基づいて、これは五月三十一日の毎日新聞の記事に基づいて私どもの事務所でもとめさせていただいたものですけれども、要は、ポイントは、例えば、ステージ4でオリンピック

を開催すれば医療の逼迫が更に深刻化するリスクがある、開催は困難というようなことを議論するんじゃないかという報道に基づいて作っているんですが、やはり、ステージ4、一定の感染状況であれば開催は困難だ、こういうような提言も提言の中には含まれると理解してよろしいんでございますか。

○尾身参考人 これは、ここに書いてあることがどうしてこういうことになっているのか、私はよく分かりませんが、今回のオリンピックをやることによつて、どういう、一番大事なのは、やはり感染者の数ということも大事ですけれども、やはり医療の逼迫というものに負荷がどうかかるといふことは、恐らく多くの国民の人の最大の関心事だと思つたので、その医療の逼迫というものがどういう状況になるとどのぐらいかかるかというようないふことは、そんなに、数というわけにはなかないと思いますけれども、医療への逼迫の度合いあるいはリスクというものは一応考慮に当然入るんだと私は思います。

○長妻委員 そうすると、確認ですけれども、開催は困難だ、こういう状況であれば開催はしてはならない、こういうようなことも提言の中には含まれているということですか。

○尾身参考人 提言というよりも我々の考え方ですけれども、これは昨日もたしか申し上げたと思うんですけども、私も、これをどうするべきということを言うことが役割ではなくて、どういふ状況ではどういふリスクがあるかということについて申し上げるのが我々の立場であり、責務

であると思つています。

その評価、リスクを、もちろん、それに伴つてリスクがあれば、それをどう軽減するかという幾つかの選択肢がありますよね。これについては、できるだけ選択肢もあればお示ししようかなと今考えていますけれども、最終的にどの選択肢を取るかというのは、私は、それは組織委員会、あるいは政府も入っているんでしょうけれども、そうした今回の開催者の人たちが決めていただくのが筋だと思つています。

○長妻委員 私は、せっかく尾身先生がそういう発表を専門家の皆さんとされるのであれば、政府が曲解しないような、そういう発表の仕方というのが重要だと思つたんですよ。

つまり、開催前提で、開催するけれども、こういうリスクがある、だからこういうふうな気をつけてください。開催は前提で、こういう感染防止のリスクを取ればリスクが最小化できる。こんなような形に政府が受け取つて、ああ、いい発表があつたけれども、開催をするときの注意事項だといふようなことで、開催をする、しないの判断ではないんだ。こういうふうに取りかかれないような政府の理解だと、私は、いろいろ禍根を残すし、相当な知見に基づいて発表した成果が非常に生かされないんじゃないか。

つまり、一定のこういう状態であればもう開催はできない、こういうような環境で感染防止対策がこのレベルであれば。そして、感染防止対策は万全だと政府は言っているけれども、実は穴があつて、どんなに一生懸命やつても、それは変異株

も含めてなかなか漏れがあるから、こういうケースの場合は開催ができない、こういうようなオプション、選択肢もその発表の中に私は入れていたいただきたいというふうに思うんですけども、それはないんですか。

○尾身参考人 先ほど申し上げましたように、リスクについては我々はしっかり書くつもりです。こういう場合のリスク、それについてどう国が判断して、どういうイメージで解釈されるというのは国あるいは組織委員会のことで、我々としてはなるべく客観的な、いわゆる今までのデータだとか、それから、当然これからの見込みというのがありますよね、そういうものを総合的に判断してこれこれの場合のリスクということをしつかりと書いて、それについてどう判断するか。

これは、私も専門家と、受け入れる側の今回の場合には組織委員会と政府、これは私ははっきりと分離すべきで、我々の仕事は評価をする、その最終的な判断、選択は私は主催者の責任だと思います。

○長妻委員 オリリンピックの期間は、御存じのように、七月の二十三日が開会式で、パラリンピックが終わるのが九月の上旬ということで、相当長丁場なんですね。

そうすると、七月二十三日をピンポイントで、七月二十三日はこういう感じだろう、だからオリリンピック云々かんぬんということではもちろんないわけで、やはり感染状況は、七月の二十三日から九月の上旬までの予想ですね、日本全国がどういう状況になるのか、なっているのか。あるいは、

その後の、潜伏期間がありますから、パラリンピックが終わった後、わあっと感染爆発が起こってしまったら、これは元も子もないわけで、そういうオリリンピック開始からパラリンピック終了までの長いスパンを見通した上での発表ということをするということではよろしいのでございますか。

○尾身参考人 これは、委員おっしゃるように、私どもは、オリリンピックが始まる日から終わる日までのことだけではなくて、その前後、特に前です、そこで、オリリンピックを仮にするのであれば、感染の拡大ということがならないようにすることが恐らく日本の社会が求めていることなので、当然、オリリンピックの期間中のこともそうすけれども、言ってみれば今日からなんですけれども、特に、これはもう一般の人々が多分関心を持っておられると思いますけれども、今回の今の緊急事態宣言の期限が切れて、これが緊急事態宣言の解除をするか延長するかというのが恐らく多くの人の関心の的だと思いますけれども、仮に解除しても、まあ、しなくてもですが、解除しても、その後、今度はオリリンピックの期間中へ入ってくるわけですよ、そういう大きな感染状況の推移とどうか、どういう流れになるのだろうということ、我々は一定程度の判断をしておりますので、そういう中で我々の考えを示すということになると思います。

出先というのはどこら辺をお考えになっておられますか。

○尾身参考人 この提出先というのは私どもはいろいろなオプションがあるとあって、これは恐らく、このことについてどこに提出するかというのは、恐らく関係の方と一応相談もする必要があると思うので、どこの先に我々の考えが届いても、その届いた、我々の考えを持っていった先の組織の方に、是非オリリンピックのIOCの方にもこの我々の考えをシェアしていただければということ、は申し上げるつもりです。

○長妻委員 そして、一ページ目に、私どもで作らせていただいたものですが、東京オリリンピック、五輪ですね、無観客であっても考えられる感染死増を招く主な五つのリスクということで作成させていただきました。

一番、町中の緩み。二番、コロナ対策にゆがみが生じるリスク。三番、本来コロナ対策に集中すべき人、物、金が割かれるリスク。四番、変異株が入国し、日本国民への感染が広がるリスク。五番、変異株が感染し合って世界に拡散するリスク。こういう主な五つのリスクを取り上げさせていただいているんですが、この中で、一番というのは大変これは大きいし、オリパラ事務局や組織委員会もコントロールできないものである。オール・ジャパンで取り組まなきゃいけないわけですから、本来は分科会を含めてみんなの英知を結集するところ、それをかたくなに政府が拒むというのは解せないわけでございます。

この中で、二番目、人、物、金、コロナ対策に

集中しなければいけないのに、多くの公務員の方、あるいは地域でオリンピックを開催する会場になっている自治体の職員、あるいは医療関係者を含めて多くの資源がそこに取られてしまう。

その中で、報道にございましたけれども、ある都内の病院、これはコロナ患者を六百人以上受け入れているということで、そこに依頼が来て、オリパラ期間中、お医者さん八人と看護師十六人を拠出してほしいと。相当これは悩みに悩んだということでありまして。コロナも患者さんを診なきゃいけない、一般診療もやらなきゃいけない、ワクチンもやらなきゃいけない、そしてオリパラだということ。

そして、江東区のボート・カヌー会場が割り当てられて、そこに行つてほしいということ、ここにリストがありますけれども、七月二十三日から、朝、開始時間が五時十五分ということで、早朝なんです。これは、ちゃんと車で自分で運転する人は行けるかもしれませんが、前の日から泊まらなきゃいけないのかということで、これが連日続くということで、大変疲弊をしているところでもあります。

これが、感染が更に広がったときに、一回約束したということで、やはりオリパラに行かなきゃいけない、これは一つの病院だけの話ですけれども、そういう状況が発生するということなんでございまして。

田村大臣にお伺いしますけれども、こういうところは、やはり夏季休暇を使って、お医者さんもう過重労働で残業、残業が繰り返されていて、

しかも、看護師さんも夏休みを使ってここに行く、そんなような状況が各病院であるんですが、連日朝五時十五分から来てくれ、こういうような要請は、今はぎりぎり対応できる、それもできないんでしようけれども、無理無理ですけれども、感染拡大したら到底これはできないんじゃないかと思うんですが、朝五時十五分からということ、こういう要請についてどういうふうに思いますか。

○田村国務大臣 通告もいただいていますし、具体的に何の話か、私は具体的な話はお聞きをいたしております。今、長妻委員がおっしゃられたことが、そういうことがもしあるという仮定でいいですかね。私はその実態はよくお聞きしております。

そういうようなことがあるとしても、やはりしっかりとコロナというものの対応はしていたか、なきやならぬわけでありまして、コロナ感染症自体が広がる中において、医療機関で患者の方々をしっかりと診ていただかなければならないお立場にあられる医療関係者は、そのようなお立場で御活躍をいただきたいというのが我々どもの考えであります。

○長妻委員 ということは、仮に、今、無理くりしてこういう形で約束、一般論としても、田村大臣、御存じです。ね、オリパラのために医療従事者が七千人要請されているということで、やはりこういうふうなスケジュールをもう拠出しているんです。ね、続々と。ところが、拠出して、感染が拡大してコロナの患者さんが増えて行けなくなった場合、これは当然キャンセルしていいわけ

です。ね。コロナの患者さんを優先するということがいいんです。ね。

○田村国務大臣 ボランティアで募集されておられるというふうに思います。個別具体的にどういう方にオリンピックの方に御協力をと言われているか、これはちょっと私は具体的なものを今持ち合わせていないので分かりませんが、もしそんなことがあるとすれば、委員がおっしゃられるようなことがあるとすれば、それは当然、人の命が懸かっている、目の前で治療があるわけでありまして、それを優先していただくのがごくごく普通の自然なことだというふうに思います。

○長妻委員 非常に常識的な御答弁だ、当然だと思えます。

尾身先生にお伺いしますと、七千人の医療関係者、尾身先生が理事長のJCHOからは拠出されるのかどうか分かりませんが、この七千人の医療関係者がここに赴いていくということについてのリスク評価というのはどんなものですか。

○尾身参考人 これも、やはり一番私は大事なものは、医療の逼迫というものが、過剰に負荷がかからないということだと思います。

それに尽きるので、そういうようにならないような、仮にオリンピックを開催するのであれば、そういう過剰な負荷、コロナの患者さんを診ているのにオリンピックの方をやって、もうコロナの患者さんの方が手いっぱいなのにオリンピックの方にやるというのは、これは恐らく、今大臣がおっしゃったように、なかなかそれは一般の市民の理解を得られないので、やるのであれば、そうい

うことが起こらないようなやり方をするのが私はオリンピック委員会及び日本政府の務めではないかと思えます。

○長妻委員 もう一つ尾身先生にお伺いするんですが、オリンピックが始まったら途中で止められないという意見もあるんですね。始まったら、オリンピック、パラリンピックはセットなので九月上旬までそのままいっちゃう、こういう議論があること自体私は心配なんですけれども、当然、途中で感染爆発のような形が起これば途中でやめるべしというのが専門家の皆さんの意見、そういう表明というのがあるわけでしょうか。

○尾身参考人 恐らくこれは田村厚生大臣の管轄ですけれども、恐らく、アドバイザリーボードのようなところは、オリンピックを開催しても、期間中も適宜、感染状況あるいは医療の逼迫状況というのは評価すると思います。

そういう中で、一度始まっちゃったものを途中で変えられるかどうかというのは、私はちょっと、今、提言をつくっている最中で、そこは少し分からないので、是非、オリンピック組織委員会の方に、一度決めちゃったものが適宜変更ができるという柔軟性があるのか、一度決めちゃったら最後までというの、ちょっと私は、組織委員会の中に入っているわけじゃないので、そのことについては、今いろいろな考え方をまとめる最中で、そのこと自体を私は知りたいたいと思って、少しそれについては調査をしてみたいと思っています。

○長妻委員 お役所じゃないんだから、一回始めたら、感染爆発が起こって感染で亡くなる方が毎

日多く出ても、これはもう決まりだから続けるんですというのは、私は、これは国としてどうなのかというふうに思います。

田村大臣にお伺いしますが、今のに関連して、本当に途中で、もし、やり始めて感染爆発のような相当人命に大きなダメージがあった場合は、これは中止ということもできるわけですよね。

○田村国務大臣 私は所管じゃないので、それに関して明確に申し上げられませんが、例えば、選手中間で大幅な感染拡大があれば、当然競技自体ができなくなりますから、競技ができないのにその競技をやるということはあり得ないというふうに思います。

その状況、状況に応じて、それは組織委員会等々がお考えになられることだというふうに思います。

○長妻委員 これはオリパラ事務局にお伺いするんですが、途中でそういう事態が起こったときに中止ということというのはオプションとしてあるわけですか。

○とかしき委員長 十時内閣官房内閣審議官、申合せの時間が来ておりますので、簡潔にお願いします。

○十時政府参考人 お答え申し上げます。

ただいま厚生労働大臣からお話がございます。たように、選手の間には感染が広まってしまっ、そもそも参加する選手がいらない、集まらないというような状況では、なかなかその競技自体は開催が難しくなるというようなこともございます。

そのように、東京大会の開催期間中に不測の事

象が起こった場合については、組織委員会において、テストイベントや机上演習などによって様々なシミュレーションのケーススタディーを行いながら準備をしていると承知をしております。しっかりとそういった準備を進めていただきたいと考えております。

○長妻委員 これで終わりますけれども、いや、違うんですよ。バブルの中、選手が出場できなくなったら中止しますというんじゃないで、選手も大切にすけれども、国民ですよ。オリンピックのお祭り騒ぎで相当な緩みが出て日本中に感染が相拡大した、選手はある程度大丈夫だった、その場合でも続けるのかということなんです。全然そういうシミュレーションがないじゃないですか。是非国民のことも考えていただきたいと思えます。ありがとうございます。